

JISLA

令和4年度 報告書 要約版

JOC国際人養成 アカデミー

JOC International
Sports Leader
Academy

CONTENTS

令和4年度 実施概要

趣旨	02
受講対象者	02
受講要件	02
日程／会場	02
カリキュラム	03

令和4年度 実施結果

受講者数／ 競技団体別受講者数	04
受講者評価	05
受講者／修了者の国際ポスト 獲得状況	05



公益財団法人日本オリンピック委員会



私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

本報告書は、令和4年度JOC国際人養成アカデミー報告書(完全版)を一部抜粋した要約版となっています。

令和4年度 「JOC国際人養成アカデミー(JISLA)」 開催要項

JOC International Sports Leader Academy

本会は、令和4年度のJOC国際人養成アカデミー（JOC International Sports Leader Academy / JISLA）を以下のよう
に開催しましたので報告します。

実施概要

趣旨

本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力
向上を図る人材育成事業である。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決
定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を実践できる人材の育成を
目指す。

受講対象者

- 本会加盟団体から推薦される下記の者
将来、所属団体を代表してIOC、OCA、IF / AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員（審判、競技ルー
ル、医事、コーチング、マーケティング等）、事務局員または国際競技大会のディレクター等に就任し、その団体や組
織の政策決定過程に関与することを目指す具体的な計画がある者。あるいはそれを目指して研鑽を積むことができる者。
- その他本会が認めた者

受講要件

- 受講者を推薦する団体は、当該団体のIF / AFポジション獲得計画を含む国際戦略、及び推薦される受講者がその国
際戦略にどのように位置づいているかのプランを策定してあること。策定されたプランは、別添様式にて提出しな
くしてはならない。
- 英語力はおおむねCEFR（Common European Framework of Reference for Languages）B1レベル以上の者。

日程／会場

日程は下記で実施された

第1週：6 / 17～19、第2週：7 / 8～10、第3週：7 / 29～31、第4週：8 / 19～21、第5週：9 / 2～4、
第6週：9 / 30～10 / 2、第7週：10 / 28～30、第8週：11 / 18～20 の全8週間 *11月20日は予備日。

毎週の標準的なスケジュール

	金曜日	土曜日	日曜日
9:00～10:15 1時間目		英語による講義②	講義①
10:30～11:45 2時間目		英語による講義③	講義②
休憩11:45～12:45			
12:45～14:00 3時間目		英語による講義④	講義③
14:15～15:30 4時間目		演習を伴う講義	講義④
15:45～17:00 5時間目			アッサンブリ
17:15～18:30 6時間目			
19:00～20:15 7時間目	英語によるグループワーク		
20:30～21:45 8時間目	英語による講義①		

研修会場：Japan Sport Olympic Square内会議室、JOC事務局内会議室ほか
宿泊施設：ホテルアジア会館 / 東京都港区赤坂 8-10-32

カリキュラム

カテゴリー			コマ数	合計 コマ数	科目名		講師名
大分類	小分類	科目名			講師名		
A	スポーツリーダーとして持つべき基礎知識	基礎	1	10	A1	ジェンダー・イクイティ	山口 理恵子 (城西大学経営学部マネジメント総合学科教授)
		基礎	2		A2	オリンピック憲章とオリンピックアジェンダ2020+5	來田 享子 (中京大学スポーツ科学部教授)
		基礎	1		A3	スポーツSDGs	井本 直歩子 (一般社団法人SDGs in Sports代表理事)
		マーケティング	1		A4	競技普及につながるNFマーケティングの考え方	坂田 洋治 (公益社団法人日本トライアスロン連合マーケティング・事業局長)
		スポーツ仲裁	1		A5	国際スポーツ組織の決定、処分とスポーツ仲裁	松本 泰介 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授)
		国際協力	1		A6	スポーツ外交	渡邊 慎二 (外務省大臣官房人物交流室室長)
		スポーツ政策	1		A7	今後のスポーツ政策の展開について	八木 和広 (スポーツ庁参事官 (国際担当))
		組織経営	1		A8	NFのイノベーションマネジメント	宮脇 信介 (前公益社団法人日本フェンシング協会専務理事)
		中長期戦略	1		A9	JOC選手強化中長期プロジェクト	水鳥 寿思 (JOC選手強化中長期戦略プロジェクトリーダー)
		B	国際スポーツリーダーとして持つべき知見		招致	1	11
財務	1			B2	数字で組織を動かす	大森 康弘 (アビームコンサルティング株式会社マネージャー)	
競技会運営	1			B3	オリパラに捧げた8年間、そこから得られたもの	中村 英正 (公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ゲームズ・デリバリー・オフィサー (大会開催統括オフィサー))	
ITO	1			B4	スポーツの国際的な仕事にかかわるまで	川廷 尚弘 (国際テニス連盟理事、日本テニス協会副会長)	
IOC	1			B5	東京2020大会におけるIOCとの仕事について	高谷 正哲 (日本トライアスロン連合理事)	
国際スポーツ組織	1			B7	国際人材としてのキャリアと未来	小谷 実可子 (公益財団法人日本オリンピック委員会常務理事)	
IF/AFポジション	2			B8	国際人材へのプラン	大塚 真一郎 (ワールドトライアスロン副会長、公益社団法人日本トライアスロン連合専務理事)	
ケーススタディ	IF役員の活動		1	B9	IF等役員ポスト獲得のプロセスと意義	古谷 利彦 (公益社団法人日本カヌー連盟専務理事、国際カヌー連盟理事)	
	IF委員選挙		1	B10	IFポジション獲得の事例	笠次 良爾 (国立大学法人奈良教育大学教育学部教授、公益社団法人日本トライアスロン連合メディカル委員会委員長)	
	その他IFポジション獲得		1	B11	IF・AFポスト獲得	望月 宣武 (公益財団法人日本セーリング連盟常務理事)	
	異文化理解		2	C1	異文化理解力	田岡 恵 (合同会社ミッレ代表社員)	
C	グローバルマインドセット	宗教	2	C2	世界の宗教概論	中村 圭志 (昭和女子大学非常勤講師)	
		政治	1	C3	スポーツからみる東アジア史	高嶋 航 (京都大学大学院文学研究科教授)	
		思考力	4	14	D1	ロジカル・シンキング&コミュニケーション	照屋 華子 (コミュニケーション・スペシャリスト)
思考力	3	D2	戦略的思考		丹羽 恵久 (ボストンコンサルティンググループマネージングディレクター&パートナー)		
思考力	2	D3	バリュー プロポジション (価値ある提案の技術)		守屋 麻樹 (ローレルゲート株式会社代表取締役)		
リーダーシップ	3	D4	リーダーシップとチーム行動		杉本 豊 (インパクトジャパン代表取締役会長 兼CGO)		
リーダーシップ	2	D5	組織を動かす力		田久保 善彦 (グロービス経営大学院研究科長 教授)		
E	国際コミュニケーション演習	Public Speaking	8	42	E1	基礎演習 Individual Presentation	ベルリッツ・ジャパン株式会社
		Global Teaming	7		E2	基礎演習 Motivate & Inspire people	
		Assertive Communication	11		E3	基礎演習 Networking & Lobbying	
		Negotiations	7		E4	基礎演習 Simulations	
		Final Project	9		E5	チームプロジェクト (事前準備) ファイナルプロジェクト (発表)	
		English Essay	1回		F1	英文レポート課題	
F	アセスメント		1回	F2	口頭試問 (修了試験)		
		合計コマ数		82	*役職は本年度アカデミー開講当時のもの		

実施結果

令和4年度の受講者数、受講者によるアカデミーへの受講満足度調査結果、修了生／受講生による直近の（2021年12月以降）新規国際スポーツ組織（IF／AF）ポスト獲得状況は下記の状況であった。

受講者数

受講者数	詳細	修了者数	詳細
29名	新規受講28名、継続受講1名	28名	1名は途中受講辞退

*開講（平成23年）以来の受講者数累計342名の詳細は以下の表を参照

JOC国際人養成アカデミー 競技団体別 受講状況

団体名	令和4年度	累計
(公財)日本陸上競技連盟		5
(公財)日本水泳連盟	2	10
(公財)日本サッカー協会	1	44
(公財)全日本スキー連盟		10
(公財)日本テニス協会		3
(公社)日本ローイング協会		5
(公社)日本ホッケー協会	2	9
(一社)日本ボクシング連盟		10
(公財)日本バレーボール協会		7
(公財)日本体操協会	2	5
(公財)日本バスケットボール協会		10
(公財)日本スケート連盟		11
(公財)日本アイスホッケー連盟	1	7
(公財)日本レスリング協会		2
(公財)日本セーリング連盟	1	8
(公社)日本ウエイトリフティング協会	2	8
(公財)日本ハンドボール協会		5
(公財)日本自転車競技連盟		3
(公財)日本ソフトテニス連盟		3
(公財)日本卓球協会	1	13
(公財)全日本軟式野球連盟		1
(公財)日本相撲連盟		4
(公社)日本馬術連盟		3
(公社)日本フェンシング協会		8
(公財)全日本柔道連盟	1	6
(公財)日本ソフトボール協会		3
(公財)日本バドミントン協会		3
(公社)日本ライフル射撃協会		4
(公財)全日本剣道連盟		2
(公社)日本近代五種協会		3

(年度別新規受講者数、2022年度終了時点)

団体名	令和4年度	累計
(公財)日本ラグビーフットボール協会	1	11
(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会	1	7
(公社)日本カヌー連盟		1
(公社)全日本アーチェリー連盟		2
(公財)全日本空手道連盟	1	3
(公社)日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟		1
(一財)全日本野球協会	1	7
(公社)日本武術太極拳連盟		1
(公社)日本カーリング協会		5
(公社)日本トライアスロン連合	4	19
(公財)日本ゴルフ協会	1	1
(公社)日本スカッシュ協会		2
(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟		1
(一社)日本バイアスロン連盟		3
(一社)日本サーフィン連盟	1	1
(一社)ワールドスケートジャパン		2
(公社)日本アメリカンフットボール協会	1	6
(公社)日本チアリーディング協会	1	10
(公社)日本オリエンテーリング協会		3
(公社)日本パワーリフティング協会		4
(公社)日本コントラクトブリッジ連盟		2
(公財)日本スポーツ協会	1	9
(独)日本スポーツ振興センター		6
(特非)東京2020招致委員会／(公財)東京2020組織委員会		2
(公財)日本スポーツ仲裁機構		1
(公財)日本パラスポーツ協会		2
(公財)日本オリンピック委員会	2	15
合計	28	342

注)本集計は新規受講者数を示しており、修了者の集計とは数値が異なる

受講者評価

アカデミーへの受講者による満足度調査を実施し、以下3項目について測定した。

- (1)JISLA全体を振り返っての満足度 (2)国際スポーツ界で活躍するための知識やスキルを得ることができた (3)受講して、国際スポーツ組織での活動を志す意欲が高まった



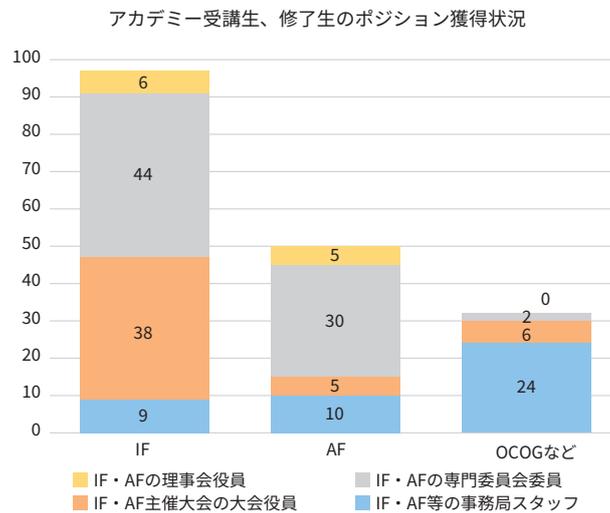
調査項目	得点
(1)JISLA全体を振り返って、満足度はいかがだったでしょうか（総合的な満足度）	4.77
(2)JISLAから、国際スポーツ界で活躍するために必要な知識やスキルを得ることができた	4.7
(3)JISLAを受講して、国際スポーツ組織での活動を志す意欲が高まった	4.44

調査方法：無記名のアンケートを用いた満足度調査。全スケジュール修了後、受講者28名にLMSを通じて依頼し、27名より回答を得た（回答率96%）。もっともポジティブな回答が5点、もっともネガティブな回答が1点の5点尺度。

参考情報

受講者／修了者の国際スポーツ組織ポスト獲得状況（累計）

平成23年度の開講以降すべての受講者が獲得した国際スポーツ組織（IF／AF等）のポスト、及びアカデミー受講者が受講開始時にすでに獲得済みであったポストを累計すると下記のとおりであった。



獲得ポスト数（累計）			
カテゴリー	IF	AF	OCOGなど
IF・AFの理事会役員（会長、副会長、専務理事、理事等）	6	5	0
IF・AFの専門委員会委員	44	30	2
IF・AF主催大会の大会役員（技術役員、審判、組織委員会委員等）	38	5	6
IF・AF等の事務局スタッフ	9	10	24

JOC 国際人養成アカデミー

令和4年度報告書 要約版

令和5年3月

編集・発行：(公財) 日本オリンピック委員会 国際部

〒160-0013

東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square 13階

TEL：03-6910-5956

FAX：03-6910-5960

印刷：ホクエツ印刷株式会社
